

### データ連携によるメリットについて

- ✓ 新たな仕組みの導入によって、現状以上のコスト負担がかかると、受け入れにくいと考える事業者も存在する。検討に当たっては、データ利用時やチケットングに伴う手数料等、データ連携に伴うお金の流れを念頭に置くことが重要。
- ✓ 移動に関わるデータは、利用者の行動変容を促すことに活用できる。例えば、環境にやさしい公共交通機関を利用した人に割引等のインセンティブを与えることを目的とする等の目的でデータを利用するという観点があれば、事業者にとってデータ連携のモチベーション向上に寄与するのではないか。
- ✓ 移動に関わるデータを活用すれば、連携する事業者間で移動サービスや関連するサービスを組合せることで、値引き等の手段を用いた需要喚起ではない価値創発型の需要喚起や、多客期と閑散期の調整等を行うことができると想定される。データ連携の高度化による価値や、価値の提供者・享受者等を整理できると良い。
- ✓ データ連携による便益を、一部の交通事業者だけが享受できる状況は望ましくない。交通は、ネットワークとして繋がることに価値があり、行政等の支援も活用しつつ、可能な限り多くの交通事業者が等しく便益を得られる仕組みとすることが重要。
- ✓ チケットングは、顧客接点が多様化し、顧客接点が他事業者に流れてしまう懸念がある反面、顧客接点の拡大につなげることも可能と考えられ、交通に限らず様々な事業者との連携を視野に入れ、議論していくことが重要。
- ✓ データ連携は、事業のスケールメリットによる生産性を向上する手段としても重要であり、この点を念頭に協調・競争領域の検討や、全ての事業者の包摂等を議論できると良い。

### データ連携の仕組みについて

- ✓ 有益なデータはあるものの競合他社には見せたくない等といった場合に、そのデータを共有するために、どのような仕組みを構築するかについて検討が必要ではないか。
- ✓ サービスデザインの観点が必要であり、データ連携の仕組みを検討する際は、ユーザー体験の一連の流れにおける動的な運行情報やチケットング等に関わるデータの使われ方を踏まえ、必要に応じて見直していくことも重要。
- ✓ 海外では、運営主体が異なるシステム間での連携を行う際の手段として、データ連携基盤（例えば、GAIA-X、Scorpio、Orion等）が検討されている。我が国においてもデジタル庁等を中心にデータ連携基盤に関する議論が進んでいることから、必要に応じて連携しても良いのではないか。

### とりまとめについて

- ✓ 本検討会でとりまとめた結果は、交通事業者の活動を拘束するものではなく、規模の大小を問わず様々な事業者が連携を企図した際に参考にできるものになると良い。